

2024年度 発達保障学校

SYLLABUS

(講義計画)

人間発達研究所

<p>コース名 「入門の入門」コース</p>	<p>2024年度回数 3回</p>	<p>担当者 安藤史郎・坂本彩・松永朋子</p>
<p>授業の内容</p> <p>入職後3年くらいまでの方が対象のコースです。乳幼児期から成人期を対象とする方まで、グループワークもしながら学び合います。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。そのような見方・考え方の入り口に立てることをめざします。ミニ講演や発達保障について基本的なことを学び、実践の楽しさや難しさについて、みんなで分かち合いましょう。4年ぶりの対面開催で、内容もブラッシュアップしました。</p>		
<p>授業の流れ *日程については、企画時の予定です。変更となる場合もあります</p> <p>6月23日（日） 9:00～12:30 （実践）</p> <p>①みんなでわいわい事例検討会 ～発達の視点で見るとどうなる？～ ②グループワーク仕事の悩み、実践の悩みのわかちあい 宿題「自分の気になる人の様子をメモに記録して持ってくる」</p> <p>9月29日（日） 9:00～12:30 （発達）</p> <p>①実践現場でなんだがおもしろかったこと、不思議だったことをもちよう ②講義「発達を学んで？」 ③グループワーク「ここがわからない」「ここが面白い」のわかちあい 宿題「気になるニュースを切り抜こう」</p> <p>12月1日（日） 9:00～12:30 （社会とのつながり）</p> <p>①みんなで壁新聞を作ろう ②講義「Personal is social」～私のことだと思っていたら、私たちのことだった！～ ③ワールドカフェでわかちあい</p>		
<p>その他</p>		

<p>コース名 発達入門コース</p>	<p>2024年度回数 5回</p>	<p>担当者 高田智行</p>
<p>授業の内容</p> <p>「何のために発達を学ぶのか?」「発達とは?」とあらためてか考えてみることからスタートする、発達について学び、考える入門コースです。0歳から就学前までの発達の道筋を追いながら発達の基礎の話をしていきます。乳幼児健診や保育等の発達保障実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p>		
<p>第1回 6月 16日（日） 13:30～16:30</p>		
<p>講義1：何のために発達を学ぶのか？ 「発達」を学ぶことの意味について少し考えてみます。「発達」を学ぶことが保育や療育等の発達保障実践にどのようにつながるのか、どのように活かすことができるのかについて学び合います。</p>		
<p>講義2：発達といいますが…発達とは？ 実践現場では、「発達」ということばを当たり前のように使うことがありますが、生活の中で「発達」ということばを使うことあまりありません。あらためて「発達」とはどういうことなのかについて考えてみます。</p>		
<p>第2回 7月 28日（日） 13:30～16:30</p>		
<p>講義3：発達のしくみ 「発達のしくみ」や「発達をどう捉えるか」について、田中等による「可逆操作の高度化における階層・段階理論」をもとに学びます。</p>		
<p>講義4：乳児の世界から幼児の世界へ 乳児期から幼児期への「生後第2の新しい発達の原動力の誕生」から1歳半の発達の節を越え「1次元可逆操作」獲得までの発達について学びます</p>		
<p>第3回 8月 18日（日） 13:30～16:30</p>		
<p>実践1：乳幼児健診の実践を通して 講義4の内容について、乳幼児健診における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>講義5：対の世界をゆたかに開く 1歳半の発達の節を越え獲得した「1次元可逆操作」の力がどのように「対の世界（2次元形成の世界）」を開いていくのかについて学びます。</p>		
<p>第4回 9月 15日（日） 13:30～16:30</p>		
<p>実践2：子育て支援の実践を通して 講義5の内容を踏まえ、「対の世界をゆたかに開く」とはどのような事なのかを、子育て支援の実践を例に考えます。</p>		
<p>講義6：揺れながら自分をつくる 対の世界（2次元形成）がゆたかに開いていくことが、4歳の発達の節を越え「2次元可逆操作」を獲得していくこととどのように関係しているのかについて学びます。</p>		
<p>第5回 10月 20日（日） 13:30～16:30</p>		
<p>実践3：保育の実践を通して 講義5の内容について、保育所巡回相談における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>講義7：人間を発達の主体として捉える 講義や実践を通して「発達」について学んだり考えてきたうえで、最後にもう一度「発達とは?」と考えてみます。そして、「発達」の視点をこれからの実践にどう活かしていくかについて考えます。</p>		

<p>集中講義 実践が楽しくなる実践記録</p>	<p>2024年度回数 1回</p>	<p>担当者 山本翔太・竹澤清</p>
<p>授業内容・テーマ</p> <p>日々の実践で関わる人たちの理解をもっと深めたい。自分自身の実践がこれでいいのかふり返り、次への方向性を考えたい。そのような思いを実現していくために、実践記録を書いてみるという事は一つの大切な方法です。実践記録はただ「客観的事実を正確に書き写したもの」ではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちのねがいが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができると同時に、「自分たちがなぜこの実践に取り組んだのか」という自分たちの意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることに繋がる重要なプロセスなのです。しかし、文章を書くことを苦手と感じる人もいるかもしれません。自分の中にある思いを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。まずは、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を見つけていき、それらを言葉にしてみます。その上で、どのように実践記録としてまとめていくのか、様々な事例なども通して一緒に学んでいきたいと思えます。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>7月28日（日）12:45～16:45</p> <p>講義1 山本翔太（人間発達研究所運営委員） 「実践記録はなぜ大切なのだろうか？」</p> <p>講義2 竹澤清（元愛知県聾学校 あいち障害者センター） 「記録を問うことは、実践を問うこと——実践につなぐ記録——」</p> <p>ワーク 進行 山本翔太（人間発達研究所運営委員）</p> <p>振り返り (適宜休憩をはさみます)</p>		

コース名	2024年度回数	担当者
実践が楽しくなる「実践記録」コース	4回と個別添削	山本翔太
授業内容・テーマ <p>実践記録を書くとてもいいことがあります。たとえば、日々向き合っている子どもやなかまの理解をもっと深めていくこと。また、実践に込められた自らの意図や目的を見つめなおし、次の実践への方向性をさだめることなどもできます。しかし、実践記録を書くことは良い事だろうとわかっているのに、「何」を書いたらいいのか、「どう」書いたらいいのか、第一歩を踏み出すことにためらってしまうかもしれません。まずは、実践の一コマを言語化して試みることから始め、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていきます。そして、それをどのように実践記録としてまとめていけばいいのか考えていきます。実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現する自分なりの“言葉”を見つめたい人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。10年後に読み返しても「生き生きとした姿が目浮かぶ」ような記録を書くことをめざします。</p>		
授業の流れ（スケジュール・内容等の計画） <p>1回目(7/28)：集中講義 前頁参照</p> <p>2回目(10/6)：実践記録を書こうとしてみる 実践場面の切り取り方や行動のとらえ方・意味づけ方を考えてみる。</p> <p>3回目(11/17)：エピソード実践記録を書いてみる 書いてみたエピソード記録を共有し、いきいきとした姿が思い浮かぶか体験する。 (伝わっているかな?)</p> <p>4回目：個別添削</p> <p>5回目(2/9)：みんなで共有 実践記録を読み合う 記述の仕方、表現方法について感想を出し合う 実践記録や実践の面白さについて語り合う</p>		

コース名 実践を学びあうコース	2024年度回数 5回	担当者 田村和宏
--------------------	----------------	-------------

授業の内容

最近の障害児の入所施設の入所理由は虐待や暴力からの擁護・保護、措置が多くみられています。目の前の障害のある子どもたちの姿には、その背景にある家族との生活の時間や関わりなどが、その子の日常の姿に大きく影響をしています。その子の姿を捉え支えていくことが複雑化・困難化してきています。でもそこを共有することなしにその子の「明日が拓かない」というのが実感ではないでしょうか。

また、8050とその先の問題。知的障害者の実践現場では高齢化が進み、両親と共に生活してきたけれども、親御さんが亡くなって新しい生活スタイルを模索しなければならなくなり、「どうしていくことが必要なのか悩んでいる」という人も多く見られています。さらに、“暴れん坊”の子どもたちに困り果てている現場もあります。それぞれの実践現場で、「それぞれ多様な曲がり角」にさしかかり、どうしていけばいいのか困っているのです。どうしても問題点ばかりが議論されて、息がつまりそうだという声もまたよく耳にします。でも、「本当に本人さんの声なき声から実践や取り組みや支援を組み立てることができていますか？」

そう感じてしまうときというのは、実践のなかで、目の前の彼女たちの「らしさ」を、いつ、どこで、どういうときに、どんなタイミングでどうみられたの？とか、その人の歴史からその人となりを感じながら「その人らしさの、エピソードでいいから話してみる」ことが足りないのではないかと思います。それは、本来楽しいものです。そうなるような雑談をレポートにしたものでも議論の入口にして、何が大切なのか共有できるような力量をつけていきましょう。

このコースは、日々向き合っている障害のある子どもや青年の姿、とりくみ（活動や仕事）を、参加している多様な職場の人たちの眼でいっしょに解きほぐすことで、自分の実践を多様な視点から見直してみる時間です。そうすることで、「わたしも、なかなかやん」と自信を取り戻したり、その実践がもつ価値を確認したり、子どもたちの内にある「ねがい」にも触れる、そして新たな発見や気づきに出会える、そんな時間です

参加者が実践報告をします。その報告について、参加者みんなで議論しながら、時にテーマをもって討議を行います。この時間が発達保障実践の推進力や幅を広げていくのだといえます。これまでの実践報告や昨年度のまとめなどを持ち寄って、いろんな角度から学び直しませんか。また、実践報告からの学びだけではなく、簡単な文献読解や講師のミニ講義も必要に応じて行います。

人間が好きになるそんなコースに、一緒にしていきませんか。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

第1回 6月23日（日）9:30~12:30 自己紹介、実践状況、私の学びたいこと、ミニ講義

第2回 9月29日（日）13:00~16:00 実践報告① 実践報告② ふりかえりとコメント

第3回 11月24日（日）13:00~16:00 実践報告③ 実践報告④ ふりかえりとコメント

第4回 1月26日（日）13:00~16:00 実践報告⑤ 実践報告⑥ ふりかえりとコメント

第5回 3月2日（日）13:00~16:00 実践報告⑦ ふりかえりとコメント まとめ講義

※予備日 上記の日程で終わらない場合に予備日の設定がある

※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください

<p>コース名 福祉政策コース</p>	<p>2024年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p>授業の内容</p> <p>(ゼミの概要)</p> <p>障害福祉サービスの報酬単価が改定されました。</p> <p>その中心の1つは、子ども子育て支援の流れを受けての児童発達支援センターの役割の変化です。もう一つは放課後等デイサービスの位置づけ方の変更です。また、大人の報酬単価はいくら賃金を得ているかどうかで、重い障害のある人を排除するかのようなくみです。そんなことを軽く概括しながら、また障害者権利条約の総括所見の学習もしつつ、日本の障害福祉政策そのものの方向感を理解していきます。</p> <p>(学びの概要)</p> <p>この報酬単価構造の変化の根元にある「狙い」は何でしょうか。それは、「権利としての社会保障」から「共助・連帯としての社会保障」への理念の転換だと考えています。このことがいまの政府の支柱です。いまの政府の支柱のもうひとつが「我が事丸ごと地域共生社会の実現」。このことあわせて、どこがどうおかしな考えなのかを確かめてみましょう。</p> <p>またここ数年は、実践者や支援者自身が悩む日々が続いているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくためには、どういう見方や考え方や理論を持つのが問われています。情勢などを把握しつつも、意見交換のなかで大切にすることや“軸”を共有したいと思います。</p> <p>(各回の内容)</p> <p>1回目に参加者の学習要求を出し合って、その方向性に沿いながらゼミの計画を立てます。資料の要約・報告などを分担しながら、その狙いについて議論して深めていきます。関連する領域・施策を学習する回を組み込むことも考えています。</p> <p>例えば以下のようなテーマで議論することもあるかもしれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「児童発達支援センターの機能や役割は何が求められているか」 「強度行動障害者の地域での生活に必要なことについて」 「医療的ケア児支援法の改正に向けて——ライフサイクルで一貫した支援をつくる——」 「障害者施設の高齢化と重度化——どこで最後を迎えるか」 「介護保険と障害者総合支援法」 「生活を考える——放課後の過ごし、土日の過ごし、長期休暇の過ごしと本人の要求」 「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」 「障害児における社会的養護の現状とこれからの方向性」 「地域で暮らすとは・・・グループホームを考える」 		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 6月23日（日） 13:30～16:30 自己紹介と問題関心の交流 ミニ講義(予定)</p> <p>第2回 8月25日（日） 13:00～16:00 分担報告 +ミニ講義（児童発達支援）</p> <p>第3回 10月27日（日） 13:00～16:00 " (放課後・学童保育)</p> <p>第4回 12月22日（日） 13:00～16:00 " (暮らす)</p> <p>第5回 2月16日（日） 13:00～16:00 分担報告 +まとめ</p> <p>※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。</p>		

コース名 発達基礎理論研究コース	2024 年度回数 10回	担当者 荒木穂積
<p>講義内容・テーマ</p> <p>本コースでは、田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習を、田中昌人らの著作や文献・資料に戻りながらすすめていきます。今年度は、幼児期の階層の幼児期Ⅰ（1歳半から3歳まで）の学習をすすめます。あわせて大津市の障害児保育の記録映画『光の中に子供たちがいる』（三部作、1975, 1976, 1977年制作）の映像や解説も取り上げ、話しことば獲得期の発達の諸問題も取りあげます。</p> <p>前半では、田中昌人『1歳児の発達診断入門』（大月書店、1999年）、久保田正人『二歳半という年齢』（新曜社、1993年）、今井和子『子どもとことばの世界』（ミネルヴァ書房、1996年）、L.ベルーヌ『乳幼児期』（朱鷺書房、邦訳1988年）など文献から話しことば獲得期（1歳半から3歳まで）などの参考文献から、話しことばや遊びの世界と自我の誕生・拡大・充実の姿の学習をすすめます。</p> <p>後半では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』」理論（『階層－段階』理論と略称）と発達診断の実際に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキストは田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』大月書店、1984年です。併行して田中昌人『人間発達の科学』青木書店、1980年、田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年、田中杉恵『発達診断と大津方式』青木書店、1990年などの文献を手がかりに学習をすすめてゆきます。</p> <p>本コースではエキストラとして冬期に集中講義を計画します。今年度は「話しことばの獲得と自我の発達」（仮題）の現状と課題を学ぶ予定です。</p> <p>発達入門コース、発達診断方法論（基本編・臨床編）コース、研究科を履修中の人または修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人など、乳幼児期の発達理論や実践に興味や関心のあるみなさんの参加を期待しています。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論の歴史的変遷（概要）と幼児期の階層の解説および前半の発表分担について</p> <p>第2回目：「話しことば獲得期」（その1）1歳半ごろの言語発達と自我の誕生</p> <p>第3回目：「話しことば獲得期」（その2）2歳前後の言語発達と自我の拡大</p> <p>第4回目：「話しことば獲得期」（その3）2歳半から3歳ごろの言語発達と自我の充実</p> <p>第5回目：「話しことば獲得期」（その3）2歳半から3歳ごろの言語発達と自我の充実 ※前半のふりかえり）とテキスト1『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』の発表分担（後半）</p> <p>第6-10回目：『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』（テキスト1）を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「1,2歳児の発達段階」（テキスト1：pp.9-30） (2) 「自我の誕生から拡大へ」（テキスト1：pp.31-122） (3) 「自我の拡大から充実へ」（テキスト1：pp.123-216） (4) 「すこやかな発達のために」（テキスト1：pp.217-252） (5) 「幼児期Ⅰ：1歳半から3歳まで」のふりかえり 		
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』大月書店、1984年 (2) 田中昌人「子どもの発達を捉え、平和を希いつづけたピカソ」（第1回～3回）、『人間 		

参考書・DVD・動画など

- (1) 田中昌人『人間発達の科学』青木書店,1980年
- (2) 田中昌人『人間発達の理論』青木書店,1987年
- (3) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』(1~8巻) DVD版,大月書店,2009年
- (4) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にみる子どもたち』(1~6巻) DVD版,大月書店,2009年
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断3: 幼児期 I』大月書店,1984年
- (6) 田中昌人『1歳児の発達診断入門』大月書店,1999年
- (7) 田中杉恵『発達診断と大津方式』青木書店,1990年
- (8) 京都教職員組合養護教員部(編) 田中昌人講演記録『子どもの発達と健康教育②—「我しりそめし心」から「理しりそめし心のいとなみ」』クリエイツかもがわ,1988年
- (9) 田中昌人『講座発達保障への道〈3〉—発達をめぐる二つの道—』全国障害者問題研究会出版部,1974年(復刻版,2006年)
- (10) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻——田中昌人の研究を引き継ぐ——』クリエイツかもがわ,2007年
- (11) 田中昌人『発達研究への志』あいゆうぴい,1996年
- (12) 田中昌人『発達の土割』あいゆうぴい,2001年
- (13) 田中昌人「子どもの発達を捉え、平和を希いつづけたピカソ」(第1回~3回),『人間発達研究所通信』 No.97,99,100,2004年9月,12月,2005年3月」
- (14) 中村隆一・渡部昭男(編著)『人間発達研究の創出と展開—田中昌人・田中杉恵の仕事をとおして歴史をつなぐ—』群青社,2015年
- (15) 久保田正人『二歳半という年齢—認知・社会性・ことばの発達—』新曜社,1993年
- (16) ビアンカ・ザゾ,久保田正人・高橋洋代・足立自朗(訳)『2歳児の幼稚園教育は是か非か』大月書店,1989年
- (17) 麻生武『〈私〉の誕生 生後2年目の奇跡I: 自分を指差す、自分の名を言う』東京大学出版会,2020年
- (18) 麻生武『〈私〉の誕生 生後2年目の奇跡II: 社会に踏み出すペルソナとしての自己』東京大学出版会,2020年
- (19) 今井和子『子どもとことばの世界—実践から捉えた乳幼児のことばと自我の育ち』ミネルヴァ書房,1996年
- (20) C.ガーヴェイ,高橋たまき(訳)『「ごっこ」の構造—子どもの遊びの世界—』(育ちゆく子ども 0才からの心と行動の世界 6)サイエンス社,1980年
- (21) ヴィゴツキー・レオンチェフ・エリコニン,神谷栄司(訳)『ごっこ遊びの世界—虚構場面の創造と乳幼児の発達—』法政出版,1989年
- (22) L.ベルーヌ,前田實子・西畑明(訳)『乳幼児期—子と親の愛の世界を築くために—』朱鷺書房,邦訳1988年
- (23) ジャン・ピアジェ,ベルベル・イネルデ,波多野完治・須賀哲夫・周郷博(訳)『新しい児童心理学』白水社(文庫クセジュ 461),1969年

その他

本コースは,レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや動画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中で関連文献や資料を紹介・配布する予定です。

<p>コース名 <心理専門職コース> 発達診断方法論 基礎編コース</p>	<p>2024年度回数 1回</p>	<p>担当者 木下孝司</p>
<p>授業の内容</p> <p>発達診断と、保育・教育の専門性に基づいた子ども理解には、方法論の相違もありますが、子どもの内面世界を読み解き、その願いや悩みを再発見するという目標は共有されるものです。このコースでは、保育・教育のための発達診断を進めるために必要な、発達理解の基本を確認します。その上で、心理学に必要な子ども理解と実践的な子ども理解を接続する方法論を検討していきます。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>8月31日（土）</p> <p>1) 講義 保育・教育のための発達理解の基本 13時～14時30分</p> <p>発達理論の必要性、発達理解の基本（機能関連、発達関連、発達の原動力と源泉など）を確認して、保育・教育においてそうした発達理解が不可欠であることをお話します。 （休憩20分）</p> <p>2) ゼミ 発達診断における私の試みと悩み 14時50分～16時</p> <p>発達診断において、それぞれの方が実践されている工夫や悩みを報告していただき、それらが理論的にもつ意味について議論します。その中で、「発達診断方法論 臨床編」における各自の学びのポイントを整理できればと思います。</p>		

<p>コース名 <心理専門職コース> 発達診断方法論 臨床篇コース</p>	<p>2024年度回数 5回</p>	<p>担当者 富井奈菜実・松島明日香</p>
<p>授業の概要</p> <p>発達診断方法論 臨床篇コースは、実際に発達相談や教育相談に従事しようとする（あるいは、現にしている）人たちを対象にしています。受講にあたって、発達診断方法論基本編コースを受講しておられると理解がより深められると思います。</p> <p>本コースでは、主として発達の階層－段階理論に依拠しながら、子ども一人ひとりの発達を理解するための発達診断の方法論について事例を通して学んでいきます。子どもの発達は多様で、変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさを伴います。そこで本コースでは以下の2点に重点を置いて進めていきます。</p> <p>①理論的根拠をもった発達診断や発達の子ども理解</p> <p>発達検査場面で見せる子どもの反応から、「できた」「できない」ということが発達の何を意味するのか、さらには子どもの“できかた”や“取り組みかた”をどのような視点でとらえることが大切かを発達理論や発達研究を軸にしながら学びます。加えて、発達の見立てが難しいという声が多々聞かれる自閉スペクトラム症などの発達障害を抱える子どもの発達診断について、発達を診断するとはどういうことかについても考えていきます。</p> <p>②発達相談員が悩みややりがいを共有する場</p> <p>発達相談に従事する人は、業務の性質上、ケースを一人で抱え込んだり、自分の進めかたや見立てに一人で悩んでいることが少なくありません。同じ立場の人たちが集い、悩みを分かち合ったり、見立てを確かめ合ったり、さらには繋がりをつくる場にしたいと考えています。授業は対面で実施し、基本的に受講者の皆さんが発達診断において悩んでいる事例などを持ち寄りながら 検討していく形式で進めていく予定です。</p>		
<p>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回：発達診断の概要</p> <p>第2回：1次元可逆操作期（1歳半頃）の発達と発達診断</p> <p>第3回：2次元形成期（2,3歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第4回：2次元可逆操作期（4歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第5回：3次元形成期（5,6歳頃）の発達と発達診断</p>		
<p><参考図書></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 白石正久・白石恵理子『教育と保育のための発達診断 新版 下巻』全障研出版部 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3 幼児期Ⅰ』大月書店 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断4 幼児期Ⅱ』大月書店 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5 幼児期Ⅲ』大月書店 ▪ 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実「新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集 幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」 		

コース名 研究科	2024年10月～ 2026年10月	担当者 渡部昭男・山田宗寛
授業の流れ（スケジュール・内容等の計画） <p>2年間で研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。 申し込みをされたら面接をオンライン（zoom）で行い、受講を決定します。 2か月に1回程度の全体ゼミと発表会（zoomで開催）、指導教員とのやりとりで執筆を支援します。</p> <p>紀要への投稿は、先行研究やテーマの妥当性・独自性が必要な原著の他に、実践記録、事例検討、研究ノート、動向、報告、実践紹介、資料等があります。発達に関わる論文の場合は、心理学の基礎的学習を終えられていることが望ましいです。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>オリエンテーション、2年間のスケジュールの内定 計画発表会・指導教員（正・副）の委嘱（6か月目） 中間発表会（12か月目） 予備論文発表会（18か月目） 査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目） 査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>※指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。</p>		

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>
